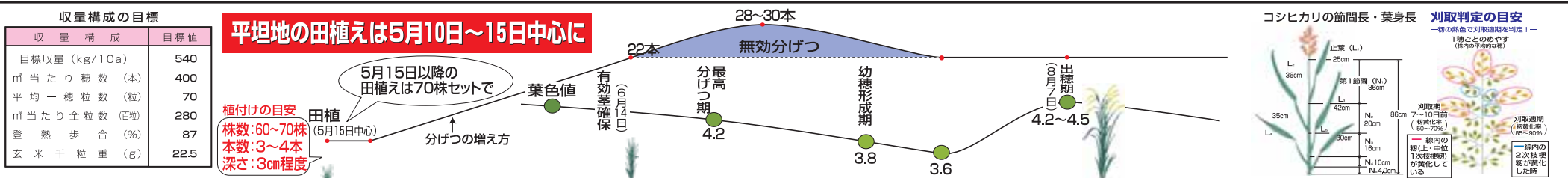


# 平成24年産 美味しいあおば米 コシヒカリの栽培こよみ あおば農業協同組合・各地区農業技術者協議会

今年度の重点対策 ①珪酸質資材の継続施用 ②5月15日を中心とした田植え ③出穂後20日間の湛水管理 ④栽培記録・GAPの確実な実践 ※肥料・農薬名は農協の推奨品目です

栽培基準を定めた生産者として



生育期	育苗期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登熟期	収穫
水管理	深水	深水	浅水管理	溝掘り	中干し期間	間断かん水	湛水	落水は急がない
月日	4月20日	5月10日	5月25日	6月10日	6月25日	7月10日	8月10日	9月15日
管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>土づくり資材の投入と深耕</li> <li>播種は18日頃から(芽出し初め50g)</li> <li>1箱当たり乾粉120g</li> <li>田面は均平にする</li> <li>代かきは練りすぎない</li> <li>土壌に応じた適正な施肥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼間止め水、朝夕短時間かん水</li> <li>活着後は3cm程度の浅水管理</li> <li>除草剤は遅れずに散布</li> <li>やや深水で保温</li> <li>田植え(15日中心)</li> <li>苗箱施肥の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早目の溝掘り</li> <li>中干し後は間断かん水を徹底</li> <li>確保した中干し開始(1株15本)</li> <li>中干しの開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼穂の確認</li> <li>畦畔、農道等の草刈りの徹底</li> <li>一回目の穂肥は幼穂長、葉色に応じて慎重に</li> <li>一回目は一回目の一週間後にしっかりと</li> <li>二回目は一回目の一週間後にしっかりと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本防除一回目(穂揃期)</li> <li>穂揃期の葉色を4.2~4.5に誘導</li> <li>基本防除一回目(穂ばらみ期)</li> <li>出穂後20日間は十分な湛水状態を保つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェーン時には十分にかん水</li> <li>刈取5~7日前までの間断かん水</li> <li>刈取時期に合わせて落水</li> <li>目標仕上げ水分14.5~15.0%</li> <li>適期刈取の実施(粉が85~90%黄化した時)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋起こし</li> <li>堆肥の施用</li> <li>土づくり資材の施用</li> <li>土づくり</li> </ul>	

**病虫草防除**

**種子消毒** (種粉10kg当たり)  
・特に細菌病(穂条病など)  
(テクリードCフロアブル)  
・水20ℓに100cc1本使用  
・24時間消毒で1回使用可  
・最初に種粉をよくゆする  
・消毒後は水洗いしない

**育苗カビの予防** (ダコレート水和剤)  
播種同時処理のみ  
・500倍液で1箱500ccかん注  
(水50ℓに1袋100gで100枚)

**苗箱施肥**  
・イネミズゾウムシ・イネドロオモシ・ウンカ類・ニカメイチュウ  
・白葉枯病・葉いもち  
(ルーチンアドスピノ箱粒剤)  
1箱当たり50g  
田植3日前~当日まで

**1回目** 穂ばらみ期 穂いもち・もんがれ病  
(ブラシンバリダ 粉剤DL) (アミスター-EIT (1,000倍液))  
・10aに4kg 10aに100~150ℓ散布する

**2回目** 穂揃期 カメムシ・ウンカ・穂いもち  
(ラプサイドキップ) (ラプサイドフロアブル(1,000倍液))  
(スタークル液剤10) (スタークル粉剤DL) (1,000倍液)  
・10aに4kg 10aに100~150ℓ散布する

**随時** 傾穂期 カメムシ・ウンカ  
(スタークル粉剤DL) (スタークル液剤10) (1,000倍液)  
・10aに3kg 10aに100~150ℓ散布する

※粒剤体系：出穂10日前にイモチエースキップ粒剤を3kg/10a散布

**土壌に応じた適正な施肥**

◆コシヒカリ肥料設計の目安(kg/10a)◆

土壌区分	一発肥料	分施肥体系			
		基肥	穂肥①	穂肥②	
沖積	SL(砂壤土)	30~35	28~33	10	13
	L(壤土)	25~30	23~28	10	12
	CL(埴壤土)	22~27	18~25	10	10
洪積	赤土	25~30	23~28	10	10
	黒ボク	28~33	25~30	10	12

\*基肥量は地力や堆肥施用量に応じて減肥しましょう。  
\*一発肥料は、安易に増やさず葉色をみて追加穂肥に対応する。

詳細な施肥設計については各地区営農経済センターへお問い合わせ下さい。

**除草剤の散布は遅れない**

田植 0 +1 +3 +5 +7 +10 +12 +20 +30 (10a当たり使用量)

初期剤+中期剤 マーシェット1キロ粒剤 1kg (田植後1~5日)

田植同時処理剤 ロングキックD1キロ粒剤 1kg (田植後0~7日)

サラブレッドRXフロアブル 500mℓ

ダブルスターSB顆粒 80g

マイウェイジャンボ 10/パック(250g)

シリウスターポジャンボ 10/パック(300g)

プラスワン1キロ粒剤51 1kg

シリウスターポ1キロ粒剤 1kg (田植後7~12日)

雑草が多く残った場合 ヒエ クリンチャー1キロ粒剤 1.0kg(ヒエ3葉期まで、但し収穫30日前まで) 1.5kg(ヒエ4葉期まで、但し収穫30日前まで) クリンチャージャンボ

1年生広葉雑草、ホタルイ、ウリカワ

パサグラン粒剤 3kg(落水散布・スポット処理可)

ヒエ、1年生広葉雑草、ホタルイ、ウリカワ等

フロアアップ1キロ粒剤(湛水散布)

※留意点：やや深めに水を張って、散布後7日間は落水やかけ流しをしない

**味に差がでる土づくり**

「土づくり」の3ポイント

- 珪酸質資材の継続的な施用
- 稲わら、堆肥・粉ガラ等の有機物の施用
- 15cm以上の深耕の実施

◆土づくり資材の10a当たり標準施用量◆

資材名	珪酸質資材				発酵鶏糞
	スーパーケイサンII	フミンエース	米取りげいざん鉄	シリカロマン	
施用量	60kg	60~100kg	100kg	60~100kg	75~105kg
特徴	ケイ酸の補給	pHの向上 腐食/等の補給	pHの向上 鉄等の補給	pHの向上 リン等の補給	春施用の場合は基肥窒素成分で1kg減肥する

※上記の中から必要な資材を選んで使用してください

**栽培記録**

区分	珪酸質資材、肥料名	施用月日		施用量	区分	農薬名	散布月日		散布量
		月	日				月	日	
土づくり	基肥	月	日	kg/10a	本田管理	耕起 (月日~月日)	月	日	kg/10a
		月	日	kg/10a			代かき (月日~月日)		
		月	日	kg/10a			落水 (月日~月日)		
		月	日	kg/10a			田植え (月日~月日)		
施肥	追肥	月	日	kg/10a	除草	農薬名	月	日	kg/10a
		月	日	kg/10a			散布月日		
		月	日	kg/10a			刈取日 (月日~月日)		
		月	日	kg/10a			散布量		